



学校だより

横浜市立六つ川台小学校

平成29年6月30日

7月号

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>

言葉の大切さ

校長 滝本 俊一

梅雨空が続くなかでも、子どもたちは元気に過ごしています。6年生は、2回目の校外学習として鎌倉散策に出かけました。今回もグループでしっかりと活動することができていて、引率する私も気持ちよく行ってくることができました。5年生は、三浦体験学習に向けて準備を進めています。こちらも楽しみにしています。

先日、南区子ども国際平和スピーチコンテストが行われ、本校からも6年生の代表が参加しました。各小学校の代表が集うこのコンテストでは、いずれの発表も個々の主張がよく伝わるものでした。ここでは、発表内容だけでなく、話し方や表情、動作なども使い、どれだけ主張が聴衆に伝わるかがポイントとなります。そんな中、私は本校の代表児童が一番良かったと思ったのは、身びいきなのでしょうか。とても立派な発表でした。

さて、人間は、このように言葉等を使ってコミュニケーションをとっていますが、動物も様々な方法を使って仲間たちとコミュニケーションをとっていることが、最近の研究でわかっています。コミュニケーションの手段としては、動作によるもの、臭いによるもの、そして音声によるものなどがあります。

言葉をもたない動物は、動作でコミュニケーションをとります。エリマキトカゲは、敵が近づくと顔の周りのひだを広げ、からだを大きく見せて敵を威嚇します。このような顕示行動もいろいろな動物が行っています。臭いによるコミュニケーションをしている動物に犬がいます。犬の嗅覚は人間の100万～1億倍も優れています。散歩中の犬同士が会おうと、お互いをけん制しているのか「ワンワン」吠えることがあります。何故か相手のおしりをクンクンと嗅ぐ姿も見ることがあります。実は、このように相手のおしりの臭いを嗅ぐことで、お互いの気持ちを理解しているそうです。おしりの周辺にある「肛門腺」から、その犬特有の臭いが出ているといわれています。この臭いから相手の年齢や性別などを知るのです。散歩中に出会った犬同士、お互いのおしりの臭いを嗅ぐことで、犬流の挨拶をしているのです。とても頭のよい動物として知られているイルカは、様々な音を発することでコミュニケーションをとっています。笛のようなピューピューという「ホイッスル音」、ギリギリという「クリック音」、ギャアギャアという「バーストパルス」などを使い分けています。「ホイッスル音」でおしゃべりをし、「クリック音」でまわりの様子を知り、「バーストパルス」で相手を威嚇します。また、イルカは、人間にはわからない傷ついた心を感じる力をもっているともいわれ、自分たちの仲間や弱っている生き物を助けたり、人間たちの心をいやしたりするそうです。

このような動物たちにくらべ、我々人間は、言葉や身振りなどでコミュニケーションをとることができます。特に言葉は、人間だけが使うことのできる大切なコミュニケーションツールです。言葉一つで、相手を喜ばせることもできれば、相手を傷つけてしまうこともあります。一つ一つの言葉の大切さ、重さをしっかりと子どもたちに伝えていきたいと思えます。

今月も、よろしく願いいたします。